

タイトル..

ゴージャスお宝鑑定家〜「う〜ん、ゴージャス」
ス！」26

登場人物..

- 剛田（こうだ）.. 剛田質店の店主。ゴージャスな品物しか鑑定しない。優雅で品のある振る舞いが特徴だが、その価値観が突き抜けており、周囲からは「クセが強い」と思われている。

- 白金（しろがね）.. 剛田質店の見習い鑑定士。真面目で常識人だが、剛田のテンションや価値観に毎回振り回される。
- 謎の来客.. ゴージャスなお宝を持ち込む客。今回は「ルビー製のサッカーボール」を持参。

- モブキャラ.. 通行人や他の鑑定客。

・ 謎の一団リーダー…秘密結社「ルビーマ
イスターズ」のリーダー。

シーン二：剛田質店の朝

（剛田質店の店内。ゴージャスな装飾が施され、店内は煌びやか。）

白金…（カウンターを拭きながら）ふう、毎朝の掃除も一苦勞だな。このシャンデリア、絶対に家賃より高いよな…。

（奥の部屋から剛田が登場。ローブを翻し、優雅に歩く。）

剛田…（大きな声で）おはよう、白金君！

白金…（少しビクツとする）お、おはようござい
ます、店主。

剛田…（胸を張り）今日も美しきゴージャスな
一日を始めようではないか！

白金：（苦笑いしながら）そうですね。でも、最近お宝が少なくなってきたような気がしますけど。

剛田：（指を上に掲げる）ゴージャスなお宝は、探しに行くものではない。運命が我々のもとに導いてくれるのだよ！

白金：（ため息）またそれですか…。

シーン 2：謎の来客

（カウンターに客がやってくる。全身黒づくめのスーツ姿にサングラス。）

謎の来客：（低い声で）ここが、噂の剛田質店か。

白金：（少し緊張しながら）ええ、そうですけど…。

剛田…（優雅にカウンターに近づき）いらっしやいませ。剛田質店へようこそ。貴殿が持参されたお宝、見せていただこうではありませんか！

謎の来客…（鞆から嚴重に梱包された物を取り出す）これだ。

（梱包を解くと、中から巨大なルビー製のサッカーボールが現れる。）

白金…（目を丸くして）えっ、ルビー…のサッカーボール！？

剛田…（息を飲む）……。

白金…店主？

剛田…（目を輝かせて）う…う…う…う…ん、ゴージャス!!!

（客が笑いながら驚く。）

シーン③：鑑定開始

（剛田が白手袋をはめ、ルビー製サッカーボールを慎重に持ち上げる。）

剛田…（大きさに息を吸い込み）この輝き、この重量感、この完璧な球体…。ルビー特有の高貴な赤が、私を魅了してやまない！

白金…（ノートを取り出しながら）いや、でも、サッカーボールにしては使い道が…。

剛田…（眉をひそめ）白金君、何を言うか。このサッカーボールがただの道具だとでも？

白金…いや、普通に考えたら実用性は…。

剛田…（威厳を持って）実用性など、ゴージャスの前では無意味！このお宝が存在するだけで、世界は美しくなるのだ！

白金…（ぼそっと）それ、どこの理論ですかね。

シーン々：価格交渉

謎の来客：（静かに）このサッカーボール、いくらになる？

剛田：（腕を組み、考えるふり）ふむ、そうだな…。このルビーの質、加工技術、そしてゴージャス度合い…。さらに、これはサッカーという全人類共通の文化を体現する一品だ！

白金：（心配そうに）でも、あまり高額だと…。

剛田：（片手を挙げて制する）黙りたまえ、白金君！ゴージャスたるもの、値段で妥協してはならない。

（剛田、ドラマチックに額を掲げる。）

剛田：一億円！！

白金：じゅ、一億！？

謎の来客…（少し驚いた様子で）ほう、そんなに評価するとは…。実はこれは…。

（突然スモークが焚かれ、客が姿を消す。店内は一瞬で騒然となる。）

白金…（煙を払いつつ）な、なんだ今の！？

剛田…（冷静を装いながら）ふむ、謎が謎を呼ぶこの展開…。実にゴージャスだ！

白金…ゴージャスじゃなくて、ただの混乱ですってば…

（剛田、サッカーボールを手にして不敵に笑う。）

剛田…（意味深に）だが、このお室は残された。これはきつと、何か重大な使命を帯びているのだよ。

シーン4.5：剛田、石言葉を熱弁

（鑑定中、剛田がルビーの石言葉について語り始める。）

剛田…（サッカーボールを掲げながら）ルビー…。その石言葉をご存じかね、白金君？

白金…（資料を見ながら）えーと、確か「情熱」や「勇気」って意味が…。

剛田…（片手を高く掲げ）違う！それは凡庸な解釈だ！真にゴージャスな者だけが理解できる、その奥深い意味を君に教えよう！

白金…（戸惑いながら）そ、そんなに大げさな…。

剛田…（大げさに胸を叩きながら）ルビー、それは「燃える魂の象徴」！そして、この球体という形状は、完全なる調和を意味するのだ！

白金…（半信半疑で）そ、そうなんですか？

剛田…（目を輝かせて）さらに言えば、サッカーボールは世界中の人々を繋ぐアイコン。そのルビーで作られたものともなれば、これは「人類の愛と情熱を統べる究極のシンボル」ではないか！

白金…（頭を抱え）なんか、急に話が壮大に…。

剛田…（勢いを増しながら）見よ、この紅色！これは愛と戦いの色！勝利の色！そして何より、ゴージャスの色だ！

白金…（小声で）勝手に決めないでください…。

剛田…（さらに熱弁）このお宝は、ただの装飾品ではない。持つ者の魂を燃え上がらせ、周囲の者を鼓舞し、世界を変える力を秘めているのだ！

白金…（呆然と）それ、本当にボールの話ですか…？

（剛田、深呼吸して優雅に微笑む。）

剛田…白金君、石言葉の深淵を知ることこそ、ゴージャスの第一歩だよ。

白金…（ぼそっと）ゴージャスの道、陰しすぎませんか…。

シーン5…追跡と真相（完全版）

（剛田と白金がルビー製サッカーボールの秘密を探るべく調査を始めたその矢先、奇抜な格好をした一団が突如現れる。彼らはゴージャスな仮面と煌びやかな衣装を纏い、どこか不気味なオーラを放つ。）

謎の一団リーダー…（大声で高笑い）そのルビーのサッカーボールを渡してもらおうか！それは我が秘密結社「ルビーマイスターズ」の聖なる至宝なのだ！

白金…(怯えながら)な、なんなんですかこの人たち!?

剛田…(ボールを抱え、毅然とした態度で)ふむ、ルビーマイスターズ…?そんなにゴージャスな名を語る者が、こんな粗雑な手段を使うとは嘆かわしい!

謎の一団リーダー…(挑発的に)粗雑だと?ルビーを愛する我らが、この至宝を取り返すのは当然の義務!そのボールを渡さぬというのなら——覚悟しろ!

(謎の一団が一斉に剛田たちを取り囲む。)

ゴージャスな攻防戦

白金…(混乱しながら)ちよっと!こんな場面、どうやって切り抜けるんですか!?

剛田…(サッカーボールを優雅に回しながら)
白金君、恐れるな。このお宝の力を信じるの
だ！ゴージャスたる者、決して慌ててはならな
い。

(剛田、突然華麗な足技でサッカーボールを
操り始める。ボールが太陽光を反射し、周囲
に赤い輝きを放つ。)

謎の一団リーダー…(驚愕しながら)な、なん
だこの眩い輝きは…！

白金…(呆然と)え、店主？そんな技、いつの
間に…？

剛田…(笑顔で)ゴージャスな者は、常に万全
の準備を怠らないのだよ。

(剛田の華麗なドリブルとフェイントが、次々
と敵を翻弄する。謎の一団が慌てふためく
中、リーダーだけは冷静に立ち向かおうとす
る。)

謎の一団リーダー…(苛立ち)小癩な…だが、
その程度で我々を止められると思うな！

ゴージャストリブル決戦の宣言

謎の一団リーダー…(剛田に向き直り)いいだ
ろう。カズくで奪うのはやめだ。ここで決着を
つけようではないか！

白金…(困惑しながら)決着って、どうい
う…？

謎の一団リーダー…(高らかに)ゴージャスト
リブル対決だ！このボールを使い、どちらが
真にルビーを愛する者かを競うのだ！

白金…(さらに混乱して)ゴージャストリブ
ル！？いや、そんな競技聞いたことないです
け
ど！

剛田…（胸を張りながら）ふむ、面白い。挑戦を受けて立とう！ゴージャスたる者、自らの誇りを賭けて戦うのだ！

白金…（頭を抱え）これ、本当に鑑定士の仕事なんですかね…。

ドリブル決戦の開始

（即席の特設フィールドが謎の一団によって用意される。観客のように謎の一団メンバーが応援し始める。）

謎の一団メンバー…（叫びながら）リーダー

ー！我らの誇りを守ってください！

観客□…（同調して）このボールを渡すわけにはいかない！

（剛田とリーダーがそれぞれフィールド中央に立ち、試合が始まる。）

剛田…（ボールを足元に置きながら）さあ、ゴージャスドリブルの真髄を見せてみたまえ。

謎の一団リーダー…（不敵な笑み）お前こそ、真のルビーの愛を見せられるか試してやる！

（試合開始の合図とともに、リーダーがボールを奪おうと突進する。しかし剛田は優雅なフェイントでかわし、ボールを自在に操る。）

白金…（感心しながら）なんだこれ…サッカー選手でもこんな華麗なドリブル見たことないですよ…。

剛田…（観客に向けて）これぞ、ルビーの輝きが導くゴージャスの舞いだ！

（フィールドがルビーの光で赤く染まり、剛田が見事なシュートを決める。ボールはゴールに突き刺さり、フィールド全体が輝きに包まれる。）

(リーダーは膝をつき、敗北を認める。)

謎の一団リーダー…(悔しそうに)くっ、こっま
でか…。だが、そのボールの真の力を知ったと
き、お前は驚愕するだろう…。

剛田…(余裕の笑みで)ふむ、どのような力であ
ろうと、この剛田の手にあれば悪しき力と
はならぬ。ゴージャスたる品格が、すべてを正
すのだ。

白金…(小声で)いや、それでどうにかなる話
なんですかね…。

(謎の一団は煙幕を使い、再戦を予告しながら
姿を消す。)

謎の一団リーダー…(去り際に)我々は必ず
再び現れる！その時まで覚悟しておけ！

白金…(煙にむせながら)もう、毎回これなん
とかならないんですか！

（剛田と白金は店に戻り、ボールを改めて見つめる。）

剛田…（静かにボールを撫でながら）このお宝、まだ多くの謎を秘めている。しかし、そのすべてがゴージャスの名のもとに解き明かされる日が来るだろう。

白金…（呆れ顔で）謎が多すぎて、胃が痛くなりそうです…。

（場面転換。店内にボールが飾られ、新たな冒険を予感させながら幕を閉じる。）

シーン9：ゴージャス対決

（剛田、謎の一団と対峙し、サッカーボールを使った謎の競技で決着をつけることに。）

謎の一団リーダー…（指を指しながら）貴様、このサッカーボールの力を侮るな！これには古代の秘術が封じられているのだ！

白金…(半信半疑で)秘術って…ルビーにそんな力があるんですか？

剛田…(笑みを浮かべながら)ルビーはただの宝石ではない。「情熱」と「運命」を秘めた石だ。このゴージャスな球体が勝者を選ぶのだよ。

謎の一団リーダー…(不敵な笑みを浮かべ)ならば、この勝負で決着をつけるしかないな！テーマは——ゴージャスドリブル対決だ！

白金…(驚愕して)ドリブル！？いや、そんな競技初めて聞きましたけど！？

剛田…(堂々と)望むところだ！ゴージャスとは、可能性の新境地を切り拓くもの。いざ、ゴージャスたる真髄を見せよう！

シーン①：ゴージャスドリブル決戦

（特設フィールドが現れ、剛田と謎の一団リーダーがドリブル勝負を開始。周囲には謎の観客たちが集まる。）

観客 A：（興奮しながら）あれが噂の剛田質店の店主か！

観客 B：（驚き）でも、なんでドリブルしてるんだ…？

（剛田の華麗なステップとルビーの輝きが連動し、観客を魅了する。）

剛田：（叫びながら）さあ、ルビーの力よ！私にゴージャスたる輝きを与えたまえ！

（謎の一団リーダーも負けじとドリブルするが、ボールの重さに苦戦する。）

白金：（冷静に解説しながら）そりゃそうだ、ルビーでできたサッカーボールなんて普通の人間じゃ扱えませんよ…。

(剛田、ボールをゴールに向けて放つ。ルビーの光が炸裂し、フィールドを赤く染める。)

剛田…(決めポーズを取りながら)ゴーーーーー
—ジャス!!!

観客たち…(大歓声)うおおおおお!!!

シーン∞真相と別れ

(剛田の勝利で一団は退散するが、リーダーは意味深い言葉を残す。)

謎の一団リーダー…(悔しそうに)そのボールの真の力を知ったとき、お前は後悔するだろう…。だが、我らは再び現れる…!!

(煙幕を使って姿を消す一団。)

白金…(咳き込みながら)ちよっと!毎回この煙幕なんかならないんですか!

剛田…(サッカーボールを見つめながら)ふむ、
真の力…。これはまだ未知の部分を秘めてい
るのかもしれない。

シーン6：石言葉の結論

(店に戻り、ルビー製サッカーボールを飾
る。)

白金…(疲れた様子で)結局、あのボールの秘
密は何だったんですか？

剛田…(優雅に微笑みながら)それは、我々の
魂を映す鏡のようなものだよ。ルビーの石言
葉―「情熱」「愛」「勝利」。だが、何より
大切なのは…。

白金…(期待して)何ですか？

剛田…(声を張り上げ)ゴージャスさだ!!

白金…(呆れて)…結局そこですか。

剛田…（笑顔で）さあ、白金君。このお宝を大切にするのだ。この輝きが、我が剛田質店に新たな伝説を刻むだろう。

（サッカーボールがスポットライトに照らされ、店内が赤い光に包まれる。）

剛田 & 白金…うゝゝん、ゴージャス！！

（画面フェードアウト。）

エンディング

（剛田質店の日常風景が映し出され、次なるゴージャスお宝の予感を匂わせる形で幕を閉じる。）